


IAM MARKET INSIGHT
マーケット・インサイト

2026年5月11日

代表取締役社長 秋野 充成

今週のポイント いちよしアセットマネジメント**AI(人工知能)・半導体関連株が牽引する形で7日の日経平均株価は大幅上昇**

連休明けの国内株式市場は異例の急上昇となりました。日経平均株価は7日、前営業日比5.6%上昇し、上昇幅は3,320.72円と過去最大を更新しました。6日にトランプ米大統領の「TACO: Trump Always Chickens Out (トランプはいつも尻込みしてやめる)」発動によりイラン情勢が緩和、米株式市場が大幅反発したことがきっかけですが、AI(人工知能)・半導体関連集中相場の波が、韓国・台湾に出遅れた日本に到来したことが背景にあります。

台湾株(加権指数)は米ドルベースで3月末から5月6日まで29%上昇、同じく韓国株(韓国総合指数)は53%上昇していました。対して日経平均株価は3月末から連休前の5月1日まで18%の上昇に留まっていた。しかし、連休明けの市場ではAI・半導体関連株が集中的に物色され日経平均株価が大きく上昇、同指数をTOPIX(東証株価指数)で割って算出するNT倍率は16.37倍まで拡大しました。

8日の米株式市場においてNYダウは12.19ドルの小幅上昇に留まりましたが、ナスダック総合が440.88ポイント(1.7%)の上昇、またSOX(フィラデルフィア半導体株指数)も614.507ポイント(5.5%)上昇と、ともに最高値を更新しています。AI・半導体関連集中相場が極まっています。CME日経平均先物^{※1}も63,665円まで上昇していることから、週初の日経平均株価は64,000円の大台を試す展開も想定されます。当面は、国内株式市場においてもAI・半導体関連集中相場が継続するものと思われます。

4月の米雇用統計は雇用者数の増加幅が市場予想を上回るなど米雇用環境の安定を示す結果に

8日に4月の米雇用統計が発表されました。非農業部門雇用者数は前月比11.5万人増と2ヵ月連続で10万人以上増加し(前月同18.5万人増)、市場予想(同6.5万人増)を上回りました。失業率は4.3%と前月(4.3%)から変わらず、市場予想(4.3%)とも一致しました。平均時給は前月比+0.2%(前月同+0.2%、市場予想同+0.3%)、前年同月比+3.6%(前月同+3.4%、市場予想同+3.8%)と伸び率は低下傾向にあり、前月比、前年同月比ともに市場予想を下回っています。雇用統計は米雇用環境の安定を示唆しており、それはADP全米雇用レポート、失業保険継続受給者数等を見ても同様です。4月までのISM景況感指数等、景気指標も景気減速の気配は無く、対イラン戦争に伴う原油高の影響による米景況感の下振れリスクは、現状においては低いと考えられます。

今後のポイントはインフレとそれを受けた米金融政策の動向

しかし、2月以前のゴルディロックス(適温相場)シナリオへ回帰するには、インフレがポイントです。3月までのインフレ統計は原油高の影響が色濃いと言わざるを得ませんが、マーケットの予想(懸念)を下回っています。4月の統計は要注目です。そして、ウォッシュFRB(米連邦準備制度理事会)新体制の判断が決定的に重要です。現状のFed Watch^{※2}によると、2026年12月のFOMC(米連邦公開市場委員会)において政策金利が3.75-4.00%(1回利上げ)となる確率は13.7%、3.50-3.75%(据え置き)となる確率は75.4%、3.25-3.50%(1回利下げ)となる確率は9.9%となっています。年内の政策金利据え置きが市場のメインシナリオです。ただ、FRBは従来、サプライサイド(供給側)に起因したインフレには利上げを躊躇する傾向があります(ディマンドプル・インフレ^{※3}時は即利上げする傾向)。そのため、ウォッシュ新体制での予防的利下げの可能性が無くなったわけではありません。4月以降のインフレ統計を受け、マーケットにおいて年内利下げ有の見通しが増加すれば、株式市場はゴルディロックスシナリオに回帰すると思われます。その場合、現状のAI・半導体関連集中相場が転換、分散が加速すると想定されます。当面は、効率性の観点から押し目買いが入らない景気敏感株(AI・半導体関連以外)が大幅に上昇する局面が到来すると思われます。

～ワンポイント用語集～

- ※1 CME日経平均先物…シカゴ・マーカントイル取引所(CME)に上場している、日経平均株価を対象とした株価指数先物取引。世界最大の取引市場であるCMEにおける価格変動は日本の現物株市場にも影響を与える。
- ※2 Fed Watch…FRBがFOMCで決める政策金利であるフェデラルファンド(FF)金利の誘導目標が変更される可能性を確率で表した数値。FF金利先物の動向に基づき算出される。
- ※3 ディマンドプル・インフレ…需要(ディマンド)が供給を上回り、購買意欲の向上によって物価が上がる「需要牽引型」のインフレのこと。一方、供給側である企業など生産者のコスト(原材料価格や賃金など)が上昇した場合に起こる物価上昇を「コストプッシュ・インフレ」と呼ぶ。